

11
月



美園小だより

令和6年10月31日
さいたま市立美園小学校
第170号 児童数 1063名
Tel 048(812)6611
Fax 048(878)6660

なずな 星野富弘 (1979)

校長 河野 秀 樹



令和6年4月に6年生に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が8月に分かりました。国語も算数も全国的にみて良好な結果でした。しかし、教員が細かく結果分析をしてみると、国語の回答時間が少ないと答える子が多かったことから、日頃からもっと活字に慣れ、書いたり考えたりする活動が必要ではないかという意見がありました。

令和6年1月に実施された「さいたま市学習状況調査」では、質問事項「読書は好きですか」の肯定的回答が低・中学年では8割前後、高学年では6～7割程度でした。子どもたちの中には授業で本を借りるだけでなく、休み時間にも図書館に足を運ぶ子もいますが、発達段階や興味・関心には個人差があるようです。

今月は読書月間です。本校の学校図書館は他校に比べて新しい本も多く、蔵書率も高いです。このような実態を踏まえて、図書委員会の児童や各学級でも読書に関わる様々な取組を行います。詳細は、次回の学校だよりで報告いたします。

今年の4月に、星野富弘さんの訃報を耳にしました。私は教員になってから、知人を通して星野富弘さんの詩画集に出会いました。その詩画集の人間味に心揺り動かされたり、美術館の作品に圧倒されたりしたことを思い出します。私の好きな詩の一つに「なずな」があります。

神様がたった一度だけ この腕を動かして下さるとしたら
母の肩をたたかせてもらおう
風に揺れる ペンペン草の実を見ていたら
そんな日が 本当に来るような気がした

星野さんは元教員で指導中に大けがを負って、首から下が動かなくなりました。入院中見舞いにももらった手紙の返事を書きたくても書けません。それまで、健康で何不自由なく生活していたのに、突然自分一人では出来ないことばかりになり、いら立ちを募らせる中、9年間息子の手足となって世話をしてくれていた母の顔にご飯粒を吐き出しました。すると、母はそっと触るように星野さんの顔を押しやえました。星野さんは、その愛に満ちた反応から、自分を無にして尽くしてくれる母の想いに気付いたのです。また、星野さんは、「車いすに乗るようになってとても大事なことを知ることができた。～からだが不自由な自分を不幸とも嫌だとも思わない。～心はいつまでも不自由ではない。～不自由な人を見て不幸と決めるのは私の心のまずさである。」とも語っています。星野さんは、口で筆をくわえて字を練習し、次第に詩や絵画を創作するようになりました。星野さんの詩画集は、10月に刊行された最新版を含め図書館にあります。ぜひ、手に取ってほしいです。

美園小学校では、愛溢れる保護者や地域の皆様とともに、子どもたちの教育に全教職員で取り組んでまいります。引き続き、御支援、御協力をお願い申し上げます。

参考資料：「かぎりなくやさしい花々」「愛、深き淵より。」など